

はじめに

コロナ禍が収束をみない中での大会となつてしまいました。

本来ならば、第十六回上林暁忌俳句大会は、大方あかつき館開館二十周年ならびに上林暁没後四十年記念行事の一環として、昨年の秋に開催される予定でした。しかし、思つてもみなかったコロナ感染症流行の時期と重なり、やむなく延期とせざるを得なかった次第です。

本年八月二十八日（暁忌）には、従来通りの形で開催できるはずでしたが、またも第四波、五波のコロナ禍の時期と重なり、やむなく通信句会（表彰式のみ実施）という不本意な形での開催となつてしまいました。講師ならびに投句者、三水会、上林暁文学館など関係者のみなさまには、まずもつてお詫び申し上げたいと思います。

以上のような厳しい状況下にもかかわらず、東京をはじめ各地から百四十七句（四十九名）もの作品を寄せていただきました。また、講師の岡林知世子先生（高知県俳句連盟副会長）には、手紙や電話を通してというまこ

とに申し訳ないかたちでのお願ひではありましたが、すばやく入賞作品（二十句）を選考していただくとともに、作品ひとつひとつに明快で味わい深い選評を書いていただきました。また表彰式には、遠路高知市よりおいでいただき、心に染み入るご講演を賜うこともできました。深く感謝申し上げます。

さらに、岡林知世子先生と上林暁文学館、三水会のご協力により、今回も大会句集を作成することができました。大会記念のひとつとして、大切に読んでいただければ幸いです。

異例づくめの大会となり、従来にも増してみなさま方にはご無理をおかけし、お世話になりました。主催者を代表し、心から感謝申し上げます。

二〇二二年八月

上林暁顕彰会会長 山沖 幸喜

入賞作品

《上林曉大賞》

文藝を支ふる町や曉忌

四万十市 柴田 清

《中山一志賞》

折れ曲がる魂文字愛し曉忌

黒潮町 國友 積

《黒潮町長賞》

木の葉髪夫の介護を生き甲斐に

高知市 千葉理枝子

《黒潮町教育長賞》

辣菰畑千条海へ香を放つ

高知市 山岡美智子

《上林曉顕彰会長賞》

曉忌露地に人情ありにけり

高知市 西込とき

《上林曉文学館長賞》

曉忌良き故郷よ隣人よ

高知市 栗坂海馬

《上林曉賞》

四万十の鮎とし育ち下るかな

香美市 甲藤卓雄

幡多ことば涼しく聞きて曉忌

須崎市 徳永逸夫

実浜木綿五体投地に曉忌

高知市 中平孝子

音のなき曉生家柿若葉

土佐清水市 山崎紀美子

片麻痺で泳ぎ切つたるダム湖かな

高知市 千葉徹

妹のまことの支え曉忌

高知市 和田和子

曉を育てし山河風薫る

四万十市 亀井しげみ

涼しさや若き曉ブロンズ像

室戸市 山本千秋

《入 選》

曉忌近き生家を塀越しに

四万十市 吉岡鈴代

訪ね来し曉墓前バラ捧ぐ

黒潮町 戸田ゆき子

4 B の文字くねくねと曉忌
新緑や偲ぶ縁のあかつき館
ひねもすを遠き海鳴り曉忌
松原に松苗根付く曉忌

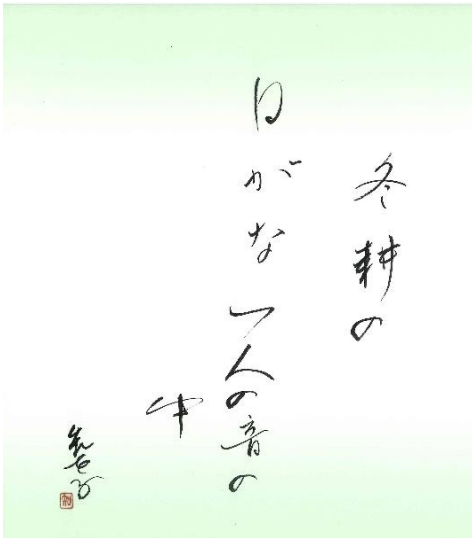
黒潮町	山沖幸喜
高知市	浜口 潔
黒潮町	宮川昭男
四万十町	藤原佳代子

入賞作品評

選者

岡林知世子 先生

(高知県俳句連盟 副会長)



《上林暁大賞》

文藝を支ふる町や暁忌

柴田 清

暁忌は未だ収束していないコロナ禍の中で第十六回を迎えました。地元黒潮町（現）は暁の文芸を支える町として（平成二年）没後十周年を記念して、第一回暁忌俳句大会を開催、以後短歌大会と交互に開催しています。この句は並々ならぬ暁への思いの籠もった作品です。この句を通して暁の生涯に思いを馳せていただきたいと思います。

《中山一志賞》

たまもじかな

折れ曲がる魂文字愛し暁忌

國友 積

暁五十一歳軽い脳溢血。左半身不随。

六十一歳二回目脳溢血。右半身不随。

その苦難を糧として文学一筋の道を貫く。七度生まれかわるとも文学をやりたい。そんな言葉を残されています。中七魂文字愛しに胸がつまります。言葉が出て来ません。

《黒潮町長賞》

木の葉髪夫の介護を生き甲斐に

千葉 理枝子

。 暁七十五歳。句集（木の葉髪）を刊行（四十万十川の青
。 き流れを忘れめや）。昭和四十三年中村為松公園に建碑
。 この句集を踏まえての句と思われます。病にある人も
。 介護をする人も。下五生き甲斐にの言葉に救われます
。

《黒潮町教育長賞》

辣萑畑千条海へ香を放つ

山岡 美智子

十一月中頃入野の浜の畑一帯を紫色に美しく彩る辣萑の花。遠流の海を背に広がる千条の畑。辣萑には独特の匂があります。香を放つときっぱり詠み切った所が清らしい。

《上林暁顕彰会長賞》

暁忌露地に人情ありにけり

西込 とき

暁の書いた私小説はその時代背景もあつてやや暗い

気がします。そんな作品の中に、市井の暮らしの人情を感じるものがあります。この句から実直な暁の人間像が浮かんで来ます。

《上林暁文学館長賞》

暁忌良き故郷よ隣人よ

栗坂 海馬

故郷を愛し続けた作家暁は、郷土関係の作品を数多く残されています。良き故郷に今は静かに眠っておられます。

《上林曉賞》

四万十の鮎とし育ち下るかな

甲藤 卓雄

名にし負う四万十の鮎として、産卵のため秋鮎は川を下ってゆきます。鮎の句からも、曉の境涯への思いは深まります。

《上林曉賞》

幡多ことば涼しく聞きて曉忌

徳永 逸夫

同じ高知県人として幡多ことばはすぐに分かります。使い慣れたことばは時を経ても、涼しく懐かしいもの

です。

因みに暁忌は土佐俳句歳時記「高知県俳句連盟編」に
季題（季語）として収録されています。

《上林暁賞》

実浜木綿五体投地に暁忌

中平 孝子

両膝、両肘、額を順に地につけて拝する最高の礼法と
辞書には書かれています。暁忌を修する最高の礼法で
す。八月二十八日、暁忌。残暑厳しい頃です。

《上林暁賞》

音のなき暁生家柿若葉

山崎 紀美子

暁亡き後も柿は実を結び、そして又新しい生命柿若葉が萌え出ずる。音のない暁生家に佇み暁を偲ぶ姿が想像されます。

《上林暁賞》

片麻痺で泳ぎ切つたるダム湖かな

千葉 徹

暁は二度目の脳溢血により、右手、右足、口が不自由となり以後病床生活を送る事になります。健康とまし

な作品の両方を望むのは虫が良すぎるのであろう。だから私はましな作品を取って、不幸に我慢している。暁の言葉にこの句を重ねました。重たい重たい言葉です。

《上林暁賞》

妹のまことの支へ暁忌

和田 和子

妹睦子さんが病気の暁を献身的に支えました。正岡子規は母八重、妹律の限りなく献身的な支えがありました。尊いことです。長い長い病苦から解放され、昭和五十五年八月二十八日、暁七十七歳。戻ることのない永遠の旅に出ました。

《上林曉賞》

曉を育てし山河風薫る

亀井 しげみ

海と山、ふるさと黒潮町の入野の松原、浮鞭のカリト坂、蠣瀬川、作品に出て来る町名です。曉はここで生まれ、中学生のころ作家を志し生涯その志を変えることがなかったと言う事です。季題風薫る。曉の人生を謳歌しています。

《上林曉賞》

涼しさや若き曉ブロンズ像

山本 千秋

久保孝雄制作のブロンズ像。「ブロンズの首」で第一回川端康成文学賞受賞。昭和四十九年暁七十二歳。川端康成より贈られた（明月）の条幅もあります。私もこのブロンズの首が好きである。見飽きることがない。作品にはそう書かれています。

参加者作品 (投句順)

1. 尾崎 清（四万十市）

村落そんらくを別つ大きな楠若葉
寄り添うて深き睡りの梅雨の猫
バラ園の花授かりし児童かな

2. 多賀凍児とうじ（四万十市）

裸木に依れば母ほど温かし
沈下橋人声通る白い闇

ダム放流初夏夜通しの舟を守る

3. 浜口 潔（高知市）

薙掘る腰を伸ばせば太平洋
私小説貫き通し曉忌

新緑や偲ぶ縁のあかつき館

4・ 中平孝子（高知市）

暁の忌なり「薔薇盗人」と云ふを知る
流木の砂に刺さりて浜晩夏
実浜木綿五体投地に暁忌

5・ 甲藤卓雄^{たくを}（香美市）

土讃線余花の豊永駅通過
滴りや町の天下の龍河洞
四万十の鮎とし育ち下るかな

6・ 山崎紀美子（土佐清水市）

音のなき暁生家柿若葉
行く春の沖に白波たちにけり

酒樽のかくし部屋めく暁忌

7・ 西森 恵（東京都）

梅檀の葉実^{はみ}青々と 努力の碑

野あざみの野道^{のみち}急ぎて野良の秋
のじ菊の咲きし断崖 足摺岬

8・ 栗坂海馬^{かいば}（高知市）

暁の黴の匂ひの貴重本

子規に似し長き闘病暁忌
暁忌良き故郷よ隣人よ

9・ 山下昭文^{あきふみ}（土佐清水市）

みかん咲く幡多の言葉に慣れしころ

船酔ひの目先を飛魚あごの飛びにけり
気ぜはしき接種と選挙梅雨きざす

1 0・
宮川昭男（黒潮町）

ひねもすを遠き海鳴り暁忌
聲かけて地酒供へし暁忌
月天心暁生家閑かなり

1 1・
岡林知世子ちせこ（高知市）

筆に身を使ひ切つたる暁忌
暁も泳かぎし青わき四十わ川今も
波音に偲ぶ暁海晩夏

1 2・
宮川恵子（黒潮町）

杖音の響く隧道^{すいどう}梅雨遍路
鯨住む海あおおと暁忌
暁忌雲泰然と流れゆく

1 3・
花井 睦（神奈川県）

更衣残る若さにおしやれして
走り梅雨開けっ放しの通し土間
父の死は火を噴く島の夜光虫

1 4・
山本千秋（室戸市）

暁の病苦麦飯左手で

麻痺の手で書きし原稿
暁忌
涼しさや若き暁
ブロンズ像

1 5・
松田玲子（黒潮町）

蛙刈りの蝮に出合い足すくむ
さくらんぼ双子のやうに手をつなぎ
瑠璃蜥蜴首をかしげて草に消ゆ

I 6・
山本薊風^{けいふう}（高知市）

小袖貝ひろひし昔春夕べ
長宗我部植えし松林緑立つ
海亀は命を待み浜下る

1 7・
畝崎桃代（土佐清水市）

萍に風密とあり沼の黙

兼山溝夏草屑の行方かな

しばらくは園児の余韻青田風

18・ 和田和子（高知市）

暁の露の祈りの私小説

露の世の夫婦の絆暁忌

妹のまことの支へ暁忌

19・ 長滝 きよし 淳（黒潮町）

分蘖の田干し五月の雨しきる

妣も来よ夜々の川縁螢狩

髪を梳く湯上がり夜の不如帰

2 0 . 徳廣由喜子（黒潮町）

メモ帳の全部らくがき子供の日
山吹ちるかつて爆弾破裂の地
あかつきの墓楊梅の雨の中

2 1 . 戸田ゆき子（黒潮町）

訪ね来し曉墓前バラ捧ぐ
子の宝バケツの中の蝌蚪の群
白髪にちよつと斜めの夏帽子

2 2 . 福本明美（四万十市）

一人座の風鈴止みて通夜更け

沈む日に茅花流しの涼しさや
水鏡青田風より薄みどり

2 3・
渡部 悟（四万十市）

片陰を譲りて日向二歩三步
炎天の母と児自販機指さす
夏帽子乗り換え駅の二番線

2 4・
大平岑子（土佐清水市）

花蜜柑潮騒近き番外寺
十葉の白の十字はふれで見
合羽着の鰹沖煮をもらひけり

2 5・ 金子範子（黒潮町）

新茶揉む媼と昔語^{かた}りかな

コロナ世や地図で行く旅合歡咲いて
また一つ凌霄花ハラリ散り敷ける

2 6・ 山沖幸喜（黒潮町）

夏若葉ふいに落ちたる雨にゆれ

4 Bの文字くねくねと曉忌
額の花かげ淡々と葉に枝に

2 7・ 國友 積（黒潮町）

あるがまま人も自然も曉忌

折れ曲がる魂文字愛し暁忌

暁の魂たまにじ滲み落つ藪椿

28・ 山岡美智子（黒潮町）

辣蕪らつきよばたせんじょう千条海へ香を放つ

かなかなやあかつき館の白き黙

ヴィオロンのマズルカ聞くや薔薇の雨

29・ 藤原佳代子（四万十町）

山羊の名は花子とレノン南吹く

浜石に本家分家の魂迎ふ

松原に松苗根付く暁忌

3 0 . 芝岡美代（土佐清水市）

銭湯の浮世絵のれん菖蒲の日
うすごろを食ふべ初夏来りけり
廃校に百年日誌河鹿鳴く

3 1 . 西込^{ごみ}とき（高知市）

仲間皆恙抱へし暁忌
美しき流れの蜻蛉暁忌
暁忌露地に人情ありにけり

3 2 . 千葉 徹（高知市）

片麻痺で泳ぎ切つたるダム湖かな

片麻痺を生きる力に夏来る

暁と同じ病に木の葉髪

3 3
・ 千葉理枝子（高知市）

木の葉髪夫の介護を生き甲斐に

露の身の二人三脚夫婦とは

暁の境涯思ふ松の花

3 4
・ 大川房子（高知市）

ゆらゆらと流れの襪に七変化

夏萩の岸辺に色を揺らしをり

こきこきと水面ジグザグにあめんぼう

3 5・ 徳永逸夫（須崎市）

教員の日々のありきや暁忌
幡多ことば涼しく聞きて暁忌
薔薇といふ漢字難し暁忌

3 6・ 弘田幸子（四万十市）

暁の朱入りの原稿青あらし
アカシア咲く馬柵のかたむく厩舎跡
花水木コロナ注射や外は雨

3 7・ 安西佐和（四万十市）

海に向く蘇鉄の花の身じろがず

捨て舟を包む夕日や仏桑花
碑の更に暁生家瑠璃蜥蜴

38・ 田久保ゆかり（京都府）

故郷に波いちまいの春日かな
遅桜観音堂の玻璃のなか
山寺の渡り廊下や夏めきて

39・ 山本明治あけはる（高知市）

万緑の尖塔一閃宙の果て
草笛の杜ふるはせて大合奏
あぢさゐの色滔々と用水路

4 0・ 渡辺春夫（黒潮町）

防鳥の網衝き抜けて穂麦かな
今朝立てし畝間の水や走梅雨
湧き上がるごとし蕃茄の脇芽かな

4 1・ 亀井雉子男きじお（四万十市）

松毬まつかさの青さ暁忌なりけり
サーファアの波をおさへて立ち上がる
珊瑚咲く海の底まで夕焼けぬ

4 2・ 亀井しげみ（四万十市）

暁を育てし山河風薫る

流木の短冊掛けや暁忌

小鳥来るこの松原をいつまでも

こうじょう

4 3

柴岡弘城

(大月町)

走り梅雨医師が泣く子をあやしつつ

老鶯や母の齡はまだ遙か

父母恋し一番星の涼しさに

4 4

柴岡文子

(大月町)

梅檀の花の母校を訪ねけり

路地路地に避難の標梅雨しとど

紫陽花に激しき雨となりけり

4 5・ 山崎美恵子（黒潮町）

怪我癒えた仇の如く髪洗ふ
妹病みて覚悟の見舞あかつき忌
辛かりし治療終えたは去年の夏

4 6・ 小野みやえ（黒潮町）

手拭ひを浸すや夏の蛸瀬川
暁忌手習ひ始む八十路前
夏の子ら暁館を駆降りつ

4 7・ 吉岡鈴代（四万十市）

夜作業の何時も傍へに虫めがね

曉忌近き生家を塀越しに

梅漬けの月日を記し終りけり

48・

下村夏江（四万十市）

水無月やシヨパンの「雨だれ」ラジオから

白南風や午後のチャイム海に消ゆ

白南風や紺碧の空土佐の海

49・

柴田 清（四万十市）

文藝を支ふる町や曉忌

鮎舟の舳ひて眠る渡り川

潮の香も膳にひと品夏料理

《高点句》

六点句

夏帽子乗り換え駅の二番線

渡部 悟

五点句

暁の黴の匂ひの貴重本

栗坂海馬

ひねもすを遠き海鳴り暁忌

宮川昭男

杖音の響く隧道梅雨遍路

宮川恵子

かなかなやあかつき館の白き黙

山岡美智子

四点句

薙掘る腰を伸ばせば太平洋

浜口 潔

筆に身を使ひ切つたる暁忌

岡林知世子

廃校に百年日誌河鹿鳴く

芝岡美代

鯨住む海あおおと暁忌

宮川恵子

上林曉大賞 柴田 清氏



中山一志賞 國友 積氏

